

二〇二四年度 入学試験問題

国語（一次）

- 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

注意

記述問題は句読点などを忘れないようにしなさい。  
字数制限のある問題は、すべて句読点なども一字分として数えます。  
答案はていねいに書きなさい。  
問題作成の都合上、一部本文を改めている場合があります。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

— 1 —  
次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

私たちは「世間」の中で生きている。そのことは大人の日本人なら誰でも知っている。1 その「世間」がどのよ

うなものなのかを客観的に説明してくれた人はいないのである。私たちは自分の人生のある段階で「世間」の中にいる自分を発見し、その中で生きて行く知恵を周囲の人々の行動を見よう見まねで学びとりながら自分で考え出して行くしかない。学校教育の中で教師たちが私たちに教えてくれたことは皆建前だけであった。个性的に生きなければならぬこと、<sup>①</sup>

友情を大切にすること、人には親切にすること、正しいと思つたことは勇気を持つて発言してゆくこと、正義は必ず最後には勝利を収めるのだから、確信をもつて行動すること、自由こそもっとも大切なものであることなど、これらの教えは皆正しいものであつたが、このような行動をするために必要な知恵は教えられなかつたのである。今でも子供の自主性を

尊重せよとか自由を守ることが大切だといわれているが、一体そのような自由がどこにあるのかをまず問わなければならない状況なのである。いわば我が国の教育は一番大切なことは抜かして建前だけを教えてきたのである。その一番大切なことは自分が「世間」に出たときに解るものとされている。そのことを解っている人を大人というのである。<sup>②</sup>

我が国には二種類の人間がいるといつてもよいだろう。建前としての正義や公正の原理を主張する人とそのような主張をする前に正義や公正がどのような条件の下で実現できるかを考えた上でなければ発言しない人である。一般的にいつて誰でもこの二種類の人間を自分の中にもっている。私たちはこの二つの立場を常に使い分けながら生きているのである。社会科学という学問の場合はこの二種類の人間ははつきり乖離<sup>※がひ</sup>している場合が多い。

建前としての正義を声高に語る人もいるが、それよりも多いのはヨーロッパやアメリカの学者の発言を紹介し、それがそのまま日本に通用するかの議論をする人々である。これは建前論者に入るであろう。彼らはたとえばヨーロッパの事例を紹介し、我が国における個人の弱さについて論じ、個人がもっと尊重されなければならないという。しかしそのために

どうしたらよいかについてはなにも述べていないのである。

ヨーロッパの事例を紹介するだけで意味があると考えるならともかく、我が国における個人の位置がヨーロッパとは違っているなら、それが何故なのかを解明する必要があるだろう。<sup>※</sup>汚職の問題にしても、<sup>※</sup>任専の問題にしても、<sup>※</sup>薬害エイズの問題にしてもそれらの問題の根底には我が国における意思決定のあり方をめぐる問題が<sup>※</sup>露呈されているのである。通常は建前と本音という形で論ぜられることが多いが、我が国においては何らかの問題を論ずる際に常に建前と本音の<sup>※</sup>相克が見られるのである。その背景として私たちがまず考えなくてはならないのは「世間」の中での「A」の位置である。

我が国においては個人は長い間西欧的な個人である前に自分が属する人間関係である「世間」の一員であった。したがって何らかの会合において発言する際には個人としての自分の意見を述べる前にまず自分が属する「世間」の利害に反しないことを確認しなければならぬ。まず「世間」人として発言しなければならなかったのである。自分自身の意見は本音として「世間」の<sup>※</sup>蔭に隠れていた。「世間」を代弁する発言はこうして個人にとつては建前となり、本音と区別されたのである。こうして「世間」と個人の関係の中で我が国における建前と本音の区別が生まれたのである。

このような建前と本音の違いがくつきりとした輪郭をもつて現れたのが明治以降の我が国のあり方、特に近代化、西欧化との関係の中においてであった。明治政府は欧米の近代化路線を採用することを決めた。しかしその際に真の意味で我が国を欧米化することが考えられたわけではなく、少なくとも社会構造や政府機関の組織、軍制や教育などの面での近代化が考えられていただけである。制度やインフラストラクチャーの面での近代化にすぎず、西欧精神の面にまで視線が届いていたわけではなかった。2表面の近代化に過ぎず、精神の面では旧来の路線の上ですべてが考えられていたのである。

このような状況の中で我が国<sup>④</sup>特有の状況が増幅されたのである。欧米は圧倒的な文明の力をもって我が国に圧力をかけてきた。それは単に軍事力や合理的な法体制だけでなく、フランス革命を経て身につけた人権理念を表面に掲げたもので

あつたから、抵抗のしようがなかった。明治時代に欧米を訪れた政府の要人たちは欧米の社会の基礎をなしている理念の圧倒的な力に感嘆かんたんを惜しまなかった。武力だけの圧力なら抵抗のしようもあつたであろうが、否定し去ることのできない崇高すうこうな理念が掲げられたとき、その前にひれ伏すしかなかったのである。しかも我が国の現実は欧米とはあまりにかけ離れていた。明治時代に我が国は国を挙げて欧化政策に取りかかるしかなかったのである。しかし欧化といつてもそれは法制や行政構造、産業、教育制度などに限定され、人と人の関係のあり方にまではとうてい及ぶものではなかった。欧米諸国は近代化以前に数千年の時間をかけてその準備をしてきたのであり、我が国が欧米化路線を採用したとしてもわずかの時間にそのすべてをたどることができずもなかった。また当時の政府の要人たちも精神の面まで欧化しようと考えていたわけではなく、いわば **B** の道を模索していたのである。

文明にせよ、文化にせよ、最終的にはその根幹に人と人の関係の特異なあり方がある。新しい人と人の関係のあり方が生み出されたとき、新たな文明が誕生する条件が生まれたことになる。明治時代に我が国は欧米の諸制度を取り入れながら、結果としては人と人の人間関係については従来の形を残すことになった。そのような決断を明治政府がしたわけではない。圧倒的な欧米の近代的諸制度を前にして身も魂も奪われてしまいかねない状況の中でかろうじて踏みとどまったというべきであろう。こうして我が国特有の状況が生まれた。国家の体制と法制、経済の諸制度、教育体制などは欧米に範※はんを得て一応近代化されながら、一人一人の人間の生き方の点では従来の慣行が維持されたのである。

この状況はしかしやや複雑であった。**3** 当時欧米を訪れた人々は欧米の近代的個人のあり方に感嘆し、我が国の個人のあり方に不満を漏らしていたからである。欧米の個人のあり方を理想とする人々も少なからずいたのである。しかし我が国は結果としては従来の個人のあり方を変えることはなかった。こうして近代的な枠組みわくぐみの中に従来の個人のあり方だけが生き残ることになった。

(阿部謹也『教養』とは何か』より)

(注)

- ※ 乖離……そむきはなれること。
- ※ 汚職……私利私欲のために職に関して不正をなすこと。
- ※ 住専（住宅金融専門会社）の問題……一九八〇年代後半から一九九〇年初期に起きた、住宅を建てるのに必要な資金を貸す会社が抱えた巨額の借金とその処理をめぐる社会的問題。
- ※ 薬害エイズ……一九八〇年代初め、血液に異常をきたす病気の患者がHIV（ヒト免疫不全ウイルス）の混入されていた薬を投与され、HIVに感染した薬害被害のこと。
- ※ 露呈……かくれていた事柄が外から見ても分かるほどに、あらわになること。
- ※ 相克……対立するものが互いに相手に勝とうと争うこと。
- ※ インフラストラクチャー……社会や組織の基礎となる建物や設備。
- ※ 範を得て……優れた事例を参考にすること。

問一 空欄1～3に当てはまる言葉として最も適当なものを次のア～カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア なげなら                   イ つまり                   ウ したがって                   エ やはり                   オ しかし                   カ たとえば

問二 傍線部①「ない」と異なる種類・用法のものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 休日に仕事はしない。                   イ 今日の本を読まない。

ウ 明日は誰も来られない。                   エ この問題には正解がない。

オ 雨の日には元気が出ない。

問三 傍線部②「このような行動をするために必要な知恵は教えられなかった」とありますが、この説明として、最も適

当なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 日本の教育は建前だけを教えて、何をすべきかについては自分自身で考え出さなければならぬということ。
- イ 日本の教育は言葉の意味を考えさせることを重視して、正義を執行するのに必要な行動を教えないということ。
- ウ 日本の教育では建前を教えることが重要であり、本質を考えさせることから逃げているということ。
- エ 日本の教育では自由についての知恵よりも、自由がどこにあるのかをまず問わなければならないということ。
- オ 日本の教育は何事も客観的に教えているが、重要なことは抜かして建前だけを教えているということ。

問四 次の a～e を傍線部③「二種類の人間」で分類したときの組み合わせとして最も適当なものを後の【選択肢】ア～

オの中から選び、記号で答えなさい。

- a 建前としての正義や公正の原理を主張する人
- b 主張をする前に正義や公正がどのような条件下で実現できるかを考えた上で発言する人
- c 建前としての正義を声高に語る人
- d 有名な学者の発言を紹介し、それがそのまま通用するかの議論をする人々
- e 建前論者

【選択肢】

- ア (abc) と (de)
- イ (ce) と (abd)

ウ (b c e) と (a d)

エ (a) と (b c d e)

オ (b) と (a c d e)

問五 空欄Aに入る適切な言葉を本文から二字で抜き出し答えなさい。

問六 傍線部④「我が国特有の状況」とありますが、この時期にはつきりと現れた日本人の特徴を十五字前後で簡潔に答えなさい。

問七 空欄Bに入る適当な四字熟語を次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 和魂洋才      イ 和洋折衷      ウ 和魂漢才      エ 和洋混合      オ 花鳥風月

問八 本文の内容として合致するものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 明治以降の西洋の文化を取り入れた日本では従来の個人のあり方を変え、西洋に適応していった。
- イ 欧米の圧倒的な軍事力や合理的な法体制により、我が国は欧米の圧力に抵抗できなかつた。
- ウ 明治時代に欧米から取り入れた諸制度によって、人と人との関係に特異なあり方が生じた。
- エ 明治政府は精神面も欧化しようと考えていたが、本音と建前のある日本では上手くいかなかつた。
- オ 明治時代の日本は欧米の諸制度を取り入れたが、従来の人と人の関係はなんとか保つことができた。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

来人（ぼく）と圭一郎、琉生は幼なじみであり、中学入学までは毎日のように来人の祖父の営む「純喫茶パオーン」に集まり過ぎていた。一人だけ私立中学に入学した琉生と連絡が途絶えたことや、公園で琉生に無視されたことを「ぼく」は気にしながら過ぎていた。「純喫茶パオーン」に深夜、のっぺらぼうが現れると聞いた「ぼく」は同じクラブの圭一郎や権守さん、ゆりちゃん（昔からパオーンに通っている大学生）と真相をさぐるかと待ち構えていたのだが、つかまえたのっぺらぼうの正体は琉生であった。

「琉生、なんとか言えよ」

琉生を見て言った。琉生が顔をあげて、ぼくと圭一郎の顔を交互に見る。

「……ごめん」

「なんで？ 理由を聞きたいよ」

琉生は 1 間にしわを寄せて唇を噛んでいる。しばしの間があった。権守さんにはこの状況がサッパリわからないと思うけど、なにかを感じ取ってくれたのか、しずかに座っていてくれた。

「琉生」

名前を呼んだのは、圭一郎だった。琉生の肩がビクツとする。

「なあ、琉生。お前、元気だったのかよ。LINEの返事もよこさないから、ずっと心配してたよ」  
② 琉生の表情が、ふっ、と緩んだ。圭一郎ってすげえ。この状況でのっぺらぼうのことを聞かないで、琉生の心配をするなんて。空気の読めなさは、圭一郎なりのやさしさだ。

「あんまり元気じゃなかったよ、おれ」

琉生が言う。

「話してくれよ」

圭一郎が促すと、琉生はゆっくりと話しはじめた。

「新学期はじまって早々、RKRのグループLINEに、美術の時間に作ったっていう仮面の画像を送ってくれたら？」

ぼくと圭一郎はうなずいた。美術の授業で仮面を作るといふ課題があつて、ぼくは山姥、圭一郎はピエロを作製した。

あまりに無残なできばえが逆におもしろくて、すぐに画像を送つて琉生にも見せたのだ。

「なんかいいなあつて思ったんだ。中学で新しい友達はできたけど、なんていうのか、心の底からばか笑いできなくてさ。

二人が送つてくれた画像の仮面が超キモくてうらやましかった……」

「なんだそれ」

思わず声が出る。

③「それで、のつぺらぼうの仮面を作つたつてわけか？」

琉生は答えなかつたけれど、琉生なりの思いが、のつぺらぼうという、目や鼻や口、耳のない仮面に投影されているような気がした。見るもの、聞くもの、すべてが新しい中学校生活。新しい関係と新しい自分を、一から作り上げていくのは大変なことかもしれない。

「二人がいつもパオーンでだべつてるのも知つた。いいなあつて思つた」

「何度も誘つたじゃん」

④「……うん、でもさ、もう話に乗れない気がしてさ」

「そんなこと……」

とつさに声に出した瞬間、ぼくの脳裏に、三人でここで会ったときのことか思い出された。あれは確か四月だった。ぼくと圭一郎は、中学でも同じクラスになれたのがうれしくて、はしゃいでいた。

担任の先生がゴリラにそっくりで、担任自ら「ゴリラ先生って呼んでもいいぞ」と言ったのがツボで、思い出してはお腹を抱えて笑った。圭一郎がゴリラ先生の似顔絵を描いて、それがソツクリなのもおかしかった。

あのととき、琉生はどんな顔をしていただろう。話し好きの琉生のことだから、なにかしゃべってくれたと思うけど、まったく覚えてなかった。琉生の中学校のことを聞いても、知らない人のことばかりでもおもしろくなかった。

「……ごめん」

ぼくは謝った。

2

「じめん」

圭一郎も続いた。

「でも、だからって、こんな真似するのおかしくないか？　ぼくの家や圭一郎の家だったらまだわかるけど、なんでおじいちゃんなんだ？　店でこんなことするなんて、めっちゃ迷惑だろ」

ぼくの言葉に、琉生が「ごめん！」と頭を下げる。

3

4

「……できなかったんだよ」

語尾が震えている。

「おじいちゃんとおばあちゃん、夜眠れなくてかわいそうだったよ」

「それは本当にごめんなさい！」

琉生が頭を下げる。

5

ここだけは譲れないと思って、強めに言った。

「琉生は気付いてほしかったんよなあ」

うしろから声がした。

「おじいちゃん！」

おじいちゃんが二階から降りてきた。

「起こしちゃった？ うるさかったよね、ごめん」

「なーに言つとる。とつくに起きとるわい。話も全部聞かせてもらったぞなもし」

おじいちゃんは 6 を腰に当てて、にやう仁王立ちしている。

「おじいちゃんのパジャマ姿かわいい」

ゆりちゃんがつぶやき、まんざらでもなさそうな顔で、おじいちゃんが鼻をひくつかせる。おじいちゃんのパジャマは、コアラ柄だった。あらゆるポーズをしたコアラが、こつちを見てほほえ微笑んでいる。

「来人のおじいちゃん、ごめんなさいっ！」

琉生が椅子から下りて、いきなり土下座をした。

「なーにやっつんだあ、琉生。顔上げる」

琉生がおじいちゃんを見て、目をごしごしとこすつた。

「おら、のっぺらぼうはおめだつてわがつてだよ」

「えっ！ そうだったの？」

⑤ 声が裏返ってしまった。

「物音がした最初の一週間、おめとこの学校は休みだったべさ」

おじいちゃんの問いかけに、琉生が小さくうなづく。

「あつ、もしかして修学旅行!?」

思わず大きな声が出た。ぼくは琉生<sup>※</sup>の中学の修学旅行の日程を覚えていなかったけれど、おじいちゃんは知ってたんだ。確かに、その話をしたのはここ、パオーンだった。おじいちゃんも近くにいて、話を聞いていたのかもしれない。

「それと金曜と土曜の夜だべ。次の日に学校のない日を選んだんだべさ。夜更かししとったら朝起きれねえからなあ。のっぺらぼう見たときは、えらいたまげたけれども、走り去っていく姿を見て、おめだつてピンと来たべさ。じつちやをあなどつちやいけね」

おじいちゃんの謎解きに、権守さんがうなる。

「琉生はおらに気付いてほしかつたんばいね。だけん、うちに来たんばいね」

ぼくは琉生を見た。琉生は、がっくりとうなだれている。

「琉生も圭一郎も、うんと小せえどぎがらよく知つてら。おらにとっては来人と同じめんこい孫だべさ。琉生だつてそうだべ？ おらのこと、本当のじつちやだと思つてただべな？ おめんとこは、年寄りと一緒に住んでねえしよう。琉生は、じつちやに気付いてほすかつたんだべなあ。じつちやだつたら、大ごとにするって思つてだんだよなあ」

妙な方言を使って、おじいちゃんが朗々<sup>b</sup>と語る。琉生がなんの反応もしないところを見ると、凶星なのだろう。あまのじゃくな琉生らしい。素直じゃなくせに、さびしがり屋。目立つのが好きだから注目されないと、一気に不機嫌になる。

「おら、おめが夜中に出歩いちよるのが心配でならなかつただよ。中学あがつたつつつつても、まだまだこんまい子どもだ

べ。捕まえちやるか迷ったけれど、全部あきらかにすつのは、じっちゃでなく、来人や圭一郎のほうがいいだべさと思つてよう。正体わがつてからは、二階の窓からおめのことこつそり見てただよ。おめがかぶりもん取つて、家さげえるとき、心配だもんでずつと目で追つてたさあ。ほんとはうしろからついて行きたかつたけれども、足が悪いでなあ、悪かつたなあ」

琉生が今にも泣きそうな顔をしている。おじいちゃん、琉生のことが心配で、ずつと二階の窓から見てたんだ。

「今回のことは大目に見てやるばい。その代わり、一週間パオンを手伝えや」

おじいちゃんの提案に、琉生は涙を拭つて素直にうなずいた。

「一件落着？　でいいのかな」

ゆりちゃんがかわいい声で、首を傾げる。

「ちよつと待つて。ぼく、もう一つだけ琉生に確認したいことがある」

ぼくは琉生を見た。

「先月末だったと思うけど、クスノキ公園で琉生を見たよ。めっちゃ手を振つたけど、目の前で無視して素通りされた。

あれはなんだつたの？　ぼく、超シヨックだつたんだけど」

正直な気持ち伝えた。琉生がぼかんとして、「なんのこと？」と返す。

「琉生は友達と歩いてたけど、まさか気付かなかつたなんて言わないよな？」

あれほどの至近距離だ。気付かないなんておかしい。

「本気で気付かなかつた。まったく覚えがない」

嘘を言つてる顔じゃなかつた。こつちも、ぼかんとしてしまう。もしかして、あの瞬間、ぼくは透明人間にでもなつていたのだろうか。

「来人、ごめん。おれ、実は視力がすごく悪くなったんだ。裸眼だとほとんど見えない。めがねは苦手だから学校以外ではかけてないんだ」

「え、そうなの？ 今は？」

「実は今もほとんど見えない」

圭一郎が指を三本立てて「これ何本？」と聞いたけど、琉生は、わからんと言って首を振った。

こんな近くで見えないなんて！ と驚いた。

「じゃあ、ほんとに気付かなかっただけ？」

「うん、ごめん。今度からコンタクトレンズにする。それと、一緒に歩いてたのはたぶん、おれの従兄弟だ。学校の友達  
は、うちに来たことないから」

「そういうことだったんだ」  
⑥ ぼくは胸をなでおろした。

（椰月美智子「純喫茶パオーン」より）

（注）

※ RKRのグループ ……来人・圭一郎・琉生の3人のグループ。それぞれの名前の頭文字。

※ 琉生の中学の修学旅行の日程 ……琉生の入学した中学では3年生が修学旅行の期間中、他の学年も休校となる。

問一 波線部 a 「無残な」・ b 「朗々と」の本文中での意味として最も適当なものを次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 「無残な」

ア わずかな      イ 上手な      ウ あわれな      エ 中途半端な      オ まっとうな

b 「朗々と」

ア しんどそうな声で      イ 自信のない声で      ウ 怒った声で  
エ 照れた声で      オ よく聞こえる声で

問二 空欄1・6に入る語として最も適当なものを次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 足      イ 眉      ウ 指      エ 手      オ 脇

問三 傍線部①「権守さんには」が係っていく部分を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア この状況が      イ サッパリわからない      ウ 思うけど  
エ なにかを感じ取ってくれたのか      オ 座っていてくれた

#### 問四

傍線部②「琉生の表情が、ふっ、と緩んだ」とありますが、このときの琉生の気持ちとして最も適当なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分を責める言葉を想像していたのに、昔と変わらず、まずLINEの返事を気にする圭一郎になつかしさを感じている。

イ みんなに許してもらうために言い訳を考えていたが、圭一郎が話題を変えてくれたので思わず安心してしまっている。

ウ 友だちを怒らせたために絶交されると覚悟していたが、意外にも圭一郎が優しい言葉をかけてきたことに用心している。

エ 怒らないといけないタイミングなのに、怒らずにわざと別の話題に変えようとする圭一郎の頭の良さに感心している。

オ 迷惑をかけたことで非難されると思っていたのに、圭一郎に自分を心配する言葉をかけてもらい、ほっとしている。

#### 問五

傍線部③「それで、のっぺらぼうの仮面を作ったってわけか？」とありますが、ほくがこのように思った理由について説明した次の文の【1】・【2】に当てはまる言葉を、本文中より【1】は九字、【2】は二字でそれぞれ抜き出して答えなさい。

のっぺらぼうは、入学した中学で【1】（九字）【1】しあえる友人ができなくて毎日をつまらない思いで過ごす琉生の気持ちを【2】（二字）【1】しているものであると思ったから。

問六 傍線部④「そんなことつ……」とありますが、このとき言葉が最後まで続かなかった理由として最も適当なものを

次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 「そんなことない」と否定したかったが、話をしている途中で担任の先生との出会いの場面を思い出し、吹き出して笑いそうになったから。

イ 「そんなことない」と否定しようとしたが、幼い頃から一緒に過ごしてきた琉生ならば最後まで言わなくてもわかるだろうと思ったから。

ウ 「そんなことない」と否定し終える前に、琉生の言葉があまりにも自分勝手に、シヨツクを受けて何を言っているかわからなくなったから。

エ 「そんなことない」と否定しようとしたが、実際には琉生の言う通りぼくと圭一郎の会話は琉生が入れないものだったと気づかされたから。

オ 「そんなことない」と言うつもりだったが、何度も誘ったのに琉生が自分たちの思いがわかってくれないことを思い出し悔しかったから。

問七 空欄2・3・4・5に入る文の組み合わせとして正しいものを次の【選択肢】ア～オの中から一つ選び、記号で答

えなさい。

A 「なんだよ、それ。声かけて入ってくればいいじゃないか」

B 「琉生の気持ち、考えてなかったかもしれない」

C 「……ここで二人がたのしそうにしゃべっているのを見るのが嫌だったんだ。通りの向こうからたまに見てた」

D 「ぼくにじゃなくて、おじいちゃんとおばあちゃんに謝ってほしい」

【選択肢】

ア B ↓ C ↓ A ↓ D

イ C ↓ A ↓ B ↓ D

ウ A ↓ C ↓ B ↓ D

エ B ↓ A ↓ D ↓ C

オ D ↓ C ↓ A ↓ B

問八 傍線部⑤「声が裏返ってしまった」とありますが、このときの心情の説明として最も適当なものを次のア～オの中

から選び、記号で答えなさい。

ア 子どもたちの会話を邪魔するようにのっぺらぼうの正体を知っていたと自慢そうに話し出したおじいさんに「来人」は腹を立てている。

イ おじいさんに最初からのっぺらぼうの正体がわかっていたと知らされ、驚くとともに「琉生」はこれまでの行動

を恥ずかしく思っている。

ウ のっぺらぼうの正体を知っていたのに、みんなを驚かすため怖がっているふりをしていたおじいさんに「来人」はあきれてしまっている。

エ 早くからのっぺらぼうの正体がわかっていたのに、知らないふりをしてみんなを巻き込んだおじいさんの行動を「琉生」は感心している。

オ のっぺらぼうの正体がわからず怖くて眠れないと言っていたのに、おじいさんが琉生が正体だと知っていたと聞いて「来人」は驚いている。

### 問九

傍線部⑥「ぼくは胸をなでおろした」とありますが、その理由を三十字以上四十字以内で答えなさい。

三

次の問いに答えなさい。

問一

次の傍線部のカタカナをそれぞれ漢字に書き改めなさい。

- ① 口を挟むヨチがない。
- ② センコウを使って空気の流れを調べる。
- ③ 根から水をキユウシユウする。
- ④ 食べ物がシヨウカされる。
- ⑤ デンチを使って実験する。
- ⑥ インターネットでカンセツ体験ができる。
- ⑦ 通っているチイキで下校の時間が異なる。
- ⑧ ジュウミンの協力で安全に通学できる。
- ⑨ タヨウな活動が求められる社会。
- ⑩ ルールが文書としてメイジされた。

問二

次の空欄をうめてことわざ・慣用句を完成させなさい。なお、すべてひらがなで答えること。

- ① 「        」を打つ。 (相手の話に合わせてうなづくこと。)
- ② 水を「        」。 (いい状態の邪魔をすること。)
- ③ 目に「        」。 (あまりに極端で見逃せないこと。)
- ④ 「        」を投げる。 (途中であきらめること。)

問三 次の熟語の構成として適当なものを後のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 清流      ② 激増      ③ 永久      ④ 未知      ⑤ 往復      ⑥ 帰宅

ア 同じような意味の漢字を重ねたもの（岩石）

イ 反対や対（つい）になる意味の漢字を組み合わせたもの（高低）

ウ 上の漢字が下の漢字を説明しているもの（洋画）

エ 下の字から上の字へ返って読むと意味がよくわかるもの（着火）

オ 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの（非常）





